

堀川同窓会報

HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION JOURNAL

第9号

2016年3月発行

HORIKAWA 108th



世界人

今年の夏は、毎日が猛暑でした。皆様それぞれの生活に試練が与えられたのではないでしょうか。勿論、日本のみならず、イラクやインドも猛暑の記録を塗り替えました。来年は、どうなるのでしょうか。

しかし、この猛暑も終わり、秋の始まりでした。私にとっては、平成27年の暑さも2つの展示会のために忙しく過ごしました。私は、「きもの」の研究の延長線上に世界の民族服の研究を取り組んでまいりました。

同窓会会长
市田ひろみ

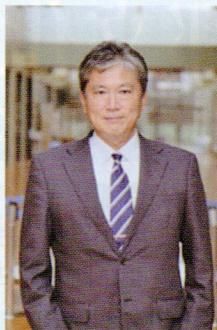
どの民族服も日本の「きもの」のように「伝統的な技」があります。私のコレクションは430セットを超える膨大なものですが、その民族にとっても減びゆくものです。私はパリやローマではなく、地図に名前の載っていないような小さな村を訪ね歩いて、半世紀になります。京都（龍谷ミュージアム）、長野（岡谷蚕糸博物館）と私の世界の民族衣装展を展開して頂きました。女性たちが、細やかで、正確な糸を操り、6ヶ月、12ヶ月かけて、緻密な工芸の技を残しています。不思議な縁があって、日本へやって来た「技」を大勢の人に見て頂きました。今や、政治、経済、文化、宗教などクロスオーバーしています。同窓会のメンバーの中にも海外で活躍している人が数多くいます。私たちの後輩が世界に目を向けて巣立って行ってほしいと思います。



市田ひろみコレクション
世界の衣装をたずねて

2015/5/30-7/20
龍谷ミュージアム

アフガニスタン クッチ族の女性衣装について解説される市田会長



堀川高校校長
恩田 徹

若き狩人

平素は母校の発展にご理解とご協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本年度の4月18日に盛大に開催されました第107回の同窓会総会の場で昨年度の卒業生6名に奨学支援金を授与してください、誠にありがとうございます。皆様方の高い志に心より感謝申し上げますとともに今後とも本校教育へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

おかげさまで文部科学省より新規のSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の指定を受けることが叶いました。第1期

から継続して15年目となり大変ありがとうございます。引き続きSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）と同時指定校として、研究開発の成果を広く発信してまいります。困難な問題も多数ございますが、単なる文武両道の進学校に留まらないためにも今後も探究校、研究開発校として挑戦し続けてまいりたいと思います。本校の最高目標は「自立する18歳」の育成です。それは日々の学習と探究活動の「二兎」を追うことを通じた自主的活動の態度を育み、高めることです。この精神はまさに107年間変わらぬ「堀川の流れ」と承知いたしております。本校らしい活動の一つとして、邦楽部も活躍しております。日本音楽部門の京都府大会で最優秀賞をいただき、来年8月に広島で開催される全国大会に出場することとなりました。ただし、演奏する琴が不足しております。どなたか、お使いにならないお琴がございましたら譲っていただけないでしょうか。

これからも、本校は、何にでも興味を持つ好奇心旺盛な生徒、他人と違うことに果敢にチャレンジする「打たれ強い出る杭」を探究活動を通して育成することを優先させていただいております。また、生徒歌「緑なす森に」を復活させるとともに探究活動を現す校歌4番の制定も生徒主体で進めさせていただいております。同窓会の皆様のますますのご健勝と、今後とも、母校への一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



京都文化鼎談ていだん (三者による対談)

「京都の文化」に深く関わる堀川高校卒業生3名が語り合う

門川 大作さん（高21）

京都市長

市田ひろみさん（本3）

堀川同窓会会长 ※服飾評論家、エッセイスト、女優、タレント

井上 裕久さん（高26）

能楽師（観世流） ※京都能楽会理事長、能楽協会理事

堀川高校卒業生で、京都の文化や古典芸能などに精通した著名人御三名に、「京都の文化の発展」について、3つのテーマを設定して自由に語りあって頂きました
この自由闊達な対話が「京都の文化の発展」に大きく貢献していくことをこの鼎談の趣旨と致しました

テーマ1

和装することの 意義や効果について

和装は和文化の象徴であり、京都(日本)の魅力を向上させる大きな資源と考えますが、和装することの意義や効果についてお聞かせください。

(会長) 堀川高校は京都市の真ん中にあり、動乱の時代を経て、同窓会が出来ました。私は、その最古参の同窓生ですが、幸せなことに市長を拝出することが出来、また、市長は京都市民を代表して、毎日信念で着物を着てくださっていて大変感謝しています。

私は、昭和38—9年から民族衣装のコレクションをして来ました。民族衣装はその民族の歴史・文化・生活の集約です。コレクターの仕事は私の運命であり、神様のキャスティングだと思っています。

(市長) 京都の町中で生まれ育ち、着物文化の集積地にいつも心を寄せてきました。町内のはほとんどが、糸へん関係の仕事をしていました。能、狂言から茶道・華道などの日本の文化は、すべて着物文化から成り立っています。「着物」は国際語にもなり、KIMONO！ Wonderful！です。日本では、「着物」が民族衣装として外国との公式行事でも使われていますが、男性の民族衣装は世界の殆どで消えてしまっています。外国との行事で和装を着用すると、相手はものすごいおもてなしをしてもらつたと感激されます。

(会長) 十二単は天皇家の式服ですが、国のロイヤルコスチュームが1000年かわらないのは、日本だけです。

(市長) 私が着物を日常、いつも着るきっかけは、「京都に行けばもっと着物の人に会えると思った。」との声が多くあり、それでは、市長の私から実践と思い実行しました。初めは自分一人で着物を着ることが出来なかつたのですが、8年前、パリで姉妹都市の50周年の式典があるのを機に、市田会長から着付けDVDを戴いて、着付けを勉強しました。公務でもプライベートでも和装で対面することによって、会話が和み、よい方向へ向かうことが多いと思います。また、これは、私の得意技(笑)なんですが、車の中で普段着の着物から「紋付き羽織袴」などに着替えることが出来ます。移動時間に器用に素早く変身します。

(井上氏) 私も職業がら和装派です。能衣装と着物の違いですが、能衣装はあくまでも舞台衣装で、大きく見せるとか、派手に見せるとか工夫されています。一般で着たら、目立ち過ぎるくらいです。また、演目で「よろい」が必要なら、よろい風に見える衣装を着用します。

(会長) 着付けが出来ない人は、着て行く所がないと必ずおっしゃいます。着物を発展させる為には、着付けを浸透させることが一番大切です。学校教育でも、日本の文化を知つてもう中に「着物」が入っていますし、中学生にも着付けを教えていました。また、市長は教育に熱心なので京都市ではジュニア日本文化検定の制度を作ってくださっています。

(市長) 着物の普及へ3点を重視しています。まず、子供の時から着物を着られるようにする。大人なら数ヶ月かかるところを子供なら3週間くらいでマスター。

次に、茶道・華道等を体験してもらい、2020年のオリンピックには、その良さを英語で説明し、外国人をおもてなしすることを目指しています。日本の文化を体験することが重要です。3つ目として、着物を着る機会を増やすこと。たとえば、着物でコンサート、着物で乾杯など行事を実施しています。京都に伝わる日本文化を大切にするとおのずと着物に愛着を感じるようになると思います。

(井上氏) 着物を着てタクシーに乗れば割引があるとか、着物を着ていたら、入場料の割引があるとか。日本の文化は着物を着ての立ち振る舞いから成り立っているので、皆さんのお力を頂きながら、色々な体験型の催しをして、和装の普及に貢献していきたいと思います。

(会長) 猛暑の日、着物を着るのもいややなあと思っていても、タクシーに乗ったら、「やっぱり、よろしいなあー」この一言で暑さが嬉しさに変わったんです。京都の暑さ・底冷え等の四季の中で私の感性が育てられたんだと思います。自然や環境が京都の生活のなかで着物を育て上げたと思っています。

テーマ2

着物を着る人を増やすための施策

某アンケート結果では、過去1年間で着物を着た女性の割合は18%でした。また、着物を着た人のシーンは、挙式・披露宴、お正月、成人式などでした。普段の外出でも着たことのある人はその中の8%のみでした。着物を着る人を増やすための施策をご自由にお話ください。

テーマ3

「和装」をユネスコ世界文化遺産へ。

2008年に「能楽」が、また、2013年には「和食」が世界文化遺産に登録されました。

では、「和装」は登録できないでしょうか？

この鼎談がトリガーとなり「和装」の世界遺産登録が実現できれば、堀川高校同窓会と御三名のお名前は後世まで語り継がれるのでは。

(会長) これまでに、いろいろ模索はしました。が、着物が出来上がるまでには、21工程があり、それぞれの工程に専門職の名人がいます。あまりにもプロセスが大きすぎて、取りまとめが非常にむずかしいという壁がありました。

でも、「和食」が世界文化遺産に登録されたときも、「和食」と一口に言っても、南は沖縄料理から北は北海道の料理まですべて「和食」ですので、「和装」もすべての工程を取りまとめて登録出来るようになればと思います。

(市長) 和食が世界遺産になる前に、「京の食文化」として、京都市独自で無形文化遺産に認定しました。京の食文化とは、料亭で頂く料理だけでなく、「頂きます」「ごちそうさま」で始まり、四季の変化を大切にした一汁三菜の家庭料理が基本です。同じ趣旨で「京の着物文化」を市の無形遺産に認定します。そして、国やユネスコと確信を持って奨めたいと思っています。自信を持っています。

(井上氏) 能自体は世界遺産になっていますが、いい点は外国人の方に興味を大いにもってもらいました。能も和装でなければ演じられないのは確かですので、是非とも世界遺産に認定させるべく、色々な協力をさせて頂きたいと思っています。

(市長) 京都の伝統産業が、伝統文化を支え、先端産業を生み出してきました。大陸から伝わったものがこの日本の京都で長年にわたり創造的に発展し、時代と共に洗練されていったこともアピール出来るポイントです。

(会長) 着物関係の仕事が衰退していく中、最近は、外国人、日本の若者にも、着物は見直されています。祇園などで、着物を着た外人の方を大勢、見かけるようになりました。これからも、和装は皆様の身近なものであるという取組みを進めていきたいと思います。

編集後記

まず最初に、この鼎談の実現のために、ご多忙なスケジュールを調整頂きました御三名に深く感謝申し上げます。

貴重なお時間を頂戴しありがとうございました。

今年も、京都市が世界で最も魅力的な観光都市に選ばれました！

世界の人気都市を決める米レジャーアンドトラベル誌の「ワールドベストシティーランキング」で京都が2年連続で1位になりました。

我々京都市民として、大変、誇りに思いますし、そんな京都を代表する御三名のこの「鼎談」がこれからの京都の発展に繋がり、「堀川高校」の名が後世に引き継がれんことを期待しています。

<取材スタッフ>

写真左から

起稿：肝付容子（服部）

M.C：大八木一壽

記録：村山敬子（山本）

撮影：河岸勝弘



ヴァイオリニスト はかせ たろう 葉加瀬太郎 (昭和61年卒業)

プロフィール

1990年、“KRYZLER & KOMPANY”的ヴァイオリニストとしてデビュー。

セリーヌ・ディオンとの共演で世界的存在となる。

1996年、“KRYZLER & KOMPANY”解散後ソロ活動開始。

2002年、自身が音楽総監督を務めるレーベル“HATS”を設立。

2007年秋、原点回帰をテーマにロンドンへ拠点を移し、膨大なクラシックスコアと日々格闘。

2013年には自身初となるドイツ・韓国・イギリス・アメリカの4か国を含むワールドツアー「TARO HAKASE World Tour 2013—JAPONISM—」を行い、独自の演奏スタイルとパフォーマンスで観客を魅了した。

2014年には、全都道府県を回るコンサートツアー「葉加瀬太郎 Best Acoustic Tour “エトピリカ”」(全60公演)を成功させる。

例年、春には「live image」、夏には恒例の野外イベント「情熱大陸スペシャルライブ」に出演し、様々なアーティストとのコラボレーションで話題を集めている。

デビュー25周年の節目の年となった2015年春、19年前に解散した“KRYZLER & KOMPANY”を再結成させ、アルバム「NEW WORLD」をリリースし、5月中旬より8都市10公演のコンサートツアーを行った。ツアーファイナルには、19年前に解散コンサートを行った想い出の地、日本武道館に新旧のファン9,000人を動員し、大盛況のうちツアーを終えた。

2015年8月、アルバム「DELUXE ~ Best Duets ~」をリリース。超豪華アーティスト達との共演による楽曲で構成された25周年を記念するまさに“DELUXE”なアルバムである。

9月、全国ツアー「葉加瀬太郎 25th Anniversary Concert “DELUXE ~ Best Selection ~”」(39ヵ所／50公演)をスタートさせた。<http://hats.jp>

① 堀川高校時代

(Q) 大阪、吹田市から京都の堀川高等学校音楽科に入学された経緯

(葉加瀬さん)

10才の時、東儀祐二先生につきました。きっかけは、浦川宜也先生の公開レッスンを大阪で受けたからです。それで、東儀先生を紹介していただき、東儀先生の門下となりました。そのころは、五嶋みどりちゃんがすでにおられ、華やかな時代でした。少年時代の僕にとっては東儀先生はあこがれの存在だったので、先生と同じ道をめざしたいと思い、堀川高校を受験しました。その前に五嶋みどりちゃんが茱莉ード音楽院に行くので、一緒に・・とのお説がわかったのですが、僕自身日本を離れる勇気がなかったんです。

※東儀 祐二(とうぎ ゆうじ)：宮内省楽部—堀川高校音楽科—東京藝術大学、ヴァイオリン奏者、指揮者、音楽教育者

※浦川 宜也(うらかわたかや)：ヴァイオリン奏者、ヨーロッパで演奏活動、東京藝術大学教授、国際コンクール審査員

※五嶋みどり(ごとう みどり)：アメリカ合衆国を拠点に活躍するヴァイオリニスト。国連ピース・メッセンジャー。相愛大学客員教授。母は五嶋節、弟はヴァイオリニストの五嶋龍。

(Q) 吹田市からの通学の思い出や堀音時代の思い出について

(葉加瀬さん)

子供の頃、相愛学園の子供音楽教室に行っていたので、僕自身、コンサートや合奏とかが非常に好きでした。高校に入って一番がっかりしたのが生徒会が無かったことでした。早速、生徒会を立上げ、生徒会長をしました。そのころ、京芸が月1回「火曜コンサート」していたので、そんなのを僕もやりたかったので、月1回のコンサートを開く為、職員室のガリ版で案内やプログラムをよく作っていた思い出があります。

(Q) 高校時代に使われていた楽器と、現在のストラディバリウスについて

(葉加瀬さん)

高校時代には、イタリアのモダンのものを両親に買ってもらい、弾いていました。今でも大切に持っています。あまり、弾くことはなくなつたけど・・・。ストラディバリウスはコレクターから貸与されて演奏することができます。



② セリーヌ・ディオン

【トゥ・ラヴ・ユー・モア】(To Love You More=もっとあなたを好きになる)
1995年10月23日に日本でリリースされたセリーヌ・ディオンのシングル。
オリジナル・ミックスに“KRYZLER & KOMPANY”が参加しています。

(Q)セリーヌ・ディオンさんと出会われ、1996年に発表された「トゥ・ラヴ・ユー・モア」は大ヒットとなり、セリーヌさんのワールドツアーにも3年にわたり出演されました。この頃の思い出話をお聞かせください。

(葉加瀬さん)

セリーヌとは、僕が以前結成していたバンド「クライズラー&カンパニー」がなかったら、会うこともなかったと思います。クライズラーは1990年にデビューし、1996年に解散しましたが、結成して2~3年後にデイヴィッド・フォスターという有名な作曲家が日本でコンサートをされ、そのときにゲストシンガーとして来ていたのが、「セリーヌ・ディオン」でした。まだ、売れる前だったかなあ。彼女はカナダの歌手で、カナダでは有名だったんです。カナダではフランス語だったので、一度カナダでの活動を休み、英語を特訓して、アメリカに乗り込んだ頃でした。デイヴィッド・フォスターが手がけたら、みんなミリオントップになると言われている人物です。その彼のコンサートで彼がたまたま僕らがやっていたコンサートのビデオを見てくれ、何か一緒に出来ればいいねという風になり、その後、3年ぐらいが過ぎ、東京での小さなコンサート(中野サンプラザ)でセリーヌさんに挨拶させていただきました。その後、1年が過ぎ、「トゥ・ラブ・ユー・モア」の曲のレコーディングのプロジェクトが出来ました。これは、フジテレビの「恋人よ」というドラマのテーマ曲で、製作は日本で、あっという間にヒットしました。それがきっかけではないが、クライズラー&カンパニーを解散することになり、その後すぐ、セリーヌのワールドツアーに参加、演奏しました。オーストラリアをはじめ、カナダ・全米でツアーを行いました。

(Q)セリーヌさんに、奥様(高田万由子さん)をご紹介されたときのエピソードをお聞かせください。

(葉加瀬さん)

よく聞かれるんですが、彼女(現奥様)とは、僕が23才、彼女は20才のころから付き合っていました。きっと彼女をセリーヌに「マイフィヤンセ」と紹介したのだと思います。実際、彼女(現奥様)は、セリーヌのコンサートによく来てくれていて、またフランス語が堪能なので、セリーヌの関係者なんかとフランス語でコミュニケーションしています。僕はもっぱら、英語ですが・・・・。何かのバラエティ番組かで話題にしたのかもしれません。

③ ロンドン

(Q)世界的なアーティストとなられた今、ロンドンに移られた経緯とこれからの活動についてお聞かせください。

(葉加瀬さん)

2007年にロンドンに移ったので、かれこれ8年になります。セリーヌとコンサートで世界中の町を廻った時、僕の心にロンドンがひっかかり、いつかは住んでみたいと思っていました。東京と行ったり来たりの生活ですが、ヴァイオリンと向かい合う時間、自分の時間を沢山持ちたいと思います。今、ピアニストも同居しています。

(Q)シェパーズ・ブッシュ・エンパイアでの公演で「情熱大陸」や「ひまわり」の演奏に大盛況のエピソードをお聞かせください。

(葉加瀬さん)

SAMURAIを彷彿させる袴仕様のパンツに黒のジャケットを身に纏って、西洋と日本との融合をコンセプトに作られた楽曲「NIPPON」や、「ひまわり」「情熱大陸」も演奏して大反響をいただいたことが印象に残っています。

(Q)活動の拠点をロンドンに移されたのですが、ご実家の京都へはどのくらいの頻度で帰られますか。

(葉加瀬さん)

ロンドンと東京の行き来が多く、京都の実家には父は他界しましたが、母と妹が住んでいます。京都にもときどきは帰りたいのですがスケジュールが調整出来ず、なかなか帰れないのが実情です。移転新築された母校「堀川音楽高校」も一度訪問したいのですが。

最後に、将来、葉加瀬さんを目指す現役高校生へメッセージをお願いします

現在47才の僕の実感としては、高校・大学の15才~20才の間に自分のやりたいこと、進みたい道をみつけて、その道を将来に向かって突き進んでいってほしいと思います。私から現役高校生にメッセージを送るとすれば、「今、やりたいこと、進みたい道を見つけなさい。」です。見つけられない輩は音楽の道をあきらめた方がいいな(笑)

取材を終えて

世界的なヴァイオリンアーティストとなられた葉加瀬太郎さん。現在は活動拠点をロンドンに移されていますがコンサートツアーで、びわ湖ホール(大津市)に滞在されたときに取材させていただきました。大変、お忙しいスケジュールのなか、こころよく取材をお受けいただき、丁寧な対応いただいたこと感謝いたします。葉加瀬太郎さん、また、ハツツマネージメント事務所さんに深く御礼申し上げます。

<取材スタッフ>

写真左から

M C: 大八木一壽、撮影: 粟津啓介

記録: 肝付容子(服部)、同窓会事務局: 小森マリ



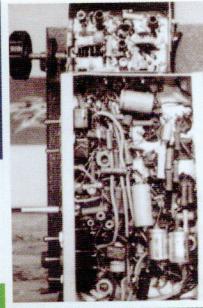
橋本弘藏さん

宇宙から電力を

京都大学生存圏研究所 名誉教授 (高17 昭和40年卒) 3組



宇宙太陽光発電を研究されている橋本弘藏博士にインタビューしました。橋本博士は京都大学名誉教授で、宇宙太陽発電学会副会長をされています。



電波一筋の学生時代

四条坊城に生まれ朱雀第一小学校、中京中学校、西京高校に進学し、高校再編成に伴って堀川高校に2年生から編入しました。その頃はラジオ等の製作が趣味でアマチュア無線にも凝っていました。京都地区のコンテストで最優秀賞をもらったこともあります。中学と高校では科学系のクラブに入り、高校時代の恩師の言葉に誘われて、京都大学工学部に進学しました。ここでプラズマで満たされている宇宙空間での電波に関する研究に取り組み、これが生涯の研究テーマとなりました。



宇宙太陽光発電研究へ

京大の助手時代にNASAに1年余り留学し、木星電波の研究をしました。帰国後は東京電機大学に10年間奉職し、その後再び京大に戻ってきました。宇宙でのプラズマ波動やその伝わり方に関する研究や観測装置の開発を進めてきましたが、松本紘先生(京都大学前総長)のご尽力で作られた実験施設ができたことを機に、宇宙太陽光発電の研究にも取り組み、現在もその推進に力を注いでいます。

太陽光発電とは？ メリットは？

宇宙空間の静止衛星軌道に超大型の太陽光パネルを広げ、得られた電力をマイクロ波に変換して地上に送り、地上のアンテナで再び電気に変換する発電方法のことです。メリットは、24時間常に安定した電力を供給できるので、効率よく太陽電池を利用でき、原子力発電に代わる安定的基幹電源となります。炭酸ガスを出さないので、放射性廃棄物問題や、地球温暖化問題を解決できる新エネルギーになることです。宇宙から地上に電力を送り届けるという技術的課題は、解決に目処が立っています。昨年(平成27年)には、マイクロ波電力伝送の地上実証実験に成功しました。次の大きな課題は、宇宙での実証実験です。実用化までには多くの課題があり、より理解が広がるように、平成26年10月に松本先生を会長に宇宙太陽発電学会を立ち上げました。(http://www.sspss.jp/)

最後に橋本先生が現在の堀川高校に望むことをお訊ねしました。
「自分のいた時代と異なり、堀川高校は多くの人たちが京大に来てくれています。この研究など、科学技術の発展に貢献してくれる人が出でることに期待しています。」とのことでした。

企画・取材・記録 粟津啓介 大八木一壽 起稿 粟津啓介 撮影・編集 河岸勝弘



ふしほら の じ こ

伏原納知子さん(現姓 山極)

堺町画廊でコーヒーを

絵本作家 堀町画廊を主宰 (高24 昭和47年卒) 3組



烏丸通から新風館北側の姉小路を東へ歩き堺町通を北に向かうとすぐに東側に堺町画廊が見えます。元は140年も前に呉服商が建て伏原さんの先々代が購入し代々医院として使っていた建物です。京町家独特のつくりで、玄関から奥まで、通り庭を抜けて奥の土間まで、そのまま入っていけます。お伺いしたときは、ちょうどカフェの準備をされており作品を眺めながらクッキーもコーヒーも戴けるようになるとのことでした。そこで、そのコーヒーを戴きながらお話を伺いました。



高校から絵を勉強し 絵本作家に 画廊もオープン

高校時代は意外にも美術部ではなくワンダーフォーゲル部と弓道部に属されていました。絵の勉強はされていたそうです。学園紛争真只中な上に、堀川は元々自由自律の校風があり、規則の厳しかった中学から行くと別世界で、自由にできる良さも悪さもあった上で、学生生活を楽しめたそうです。

同じ高校で、官僚になった人からヒッピーで生きた人まで、いろいろなことが、その後の社会での生活にとつて良かったし、役に立ったそうです。

卒業後、京都精華短期大学(現京都精華大学)に進学されグラフィックの勉強を継続されました。卒業後は染色会社に就職し着物の図案を作成しておられました。

鳥が好きで鳥の絵を多く書かれていたこともあり、鳥の挿絵などの仕事が来るようになりました。ちなみに「のじご」というお名前は、同様に鳥好きで京都野鳥の会会長でもあったお父様が野鳥の名前からつけたものだ



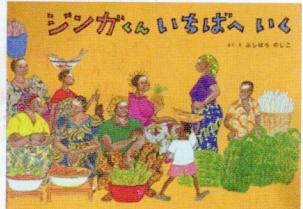
そうです。その後その実力が認められ次第に絵本や挿絵の仕事も増えてきたため退社され絵本作家として独立されます。その後、町家である自宅の維持のため、店の間を改装して貸し画廊にし、さまざまな作家の方に作品発表の場として使って戴いてきました。その後ご結婚され二人のお子様を授かります。

夫の研究で家族全員アフリカのコンゴへ

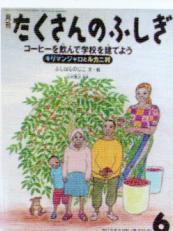


結婚したお相手のお仕事がゴリラなどの野生動物の研究だったため、お子様も連れてアフリカのコンゴ民主共和国（当時ザイール）へ渡航され地元で生活されることになります。家族全員マラリアに罹患するなど衛生面では大変なこともありましたが、アフリカの大自然や、そこに暮らす人たちとの交流も含めとても充実し楽しい生活だったそうです。2回目の渡航では、現地での生活をまた始められたのですが内戦によって、それは突如断ち切られます。何とか日本に帰国することはできたのですが、かなり危険だったそうです。大変なお話なのですが、さらっと普通に語られるので、逆に芯の強さを感じてしまいます。何にも動ぜず貴く信念が優しい語り口の中に感じられます。

ふしまらさんの絵本はアフリカの野生生物や現地の人たちの暮らしを紹介するものが多くあります。また、作品にするだけでなく現地の人たちを応援するフェアトレードコーヒー普及などの活動もされています。戴いたコーヒーも、そうやって日本に届けられたコーヒーなのです。



帰国後 再び京都で画廊を



帰国後、愛知県犬山市と京都を行き来する生活がしばらく続きましたが親御さんの介護もあり、今は実家である堺町画廊に居を構えおられます。無論画廊での活動は続いており今も多くの作家さんたちを含めた多種多彩な展示を行い、情報発信をされています。

堀川時代の自由自律の精神を、そのまま今に生かして活動されている素敵なおじいさんといえます。京都在住の方はもちろん、現在地方にお住みのOBの皆さんも上洛の折には是非、一度堺町画廊を訪れられることをお勧めします。また絵本を手にとってください。きっと、面白い発見があると思います。

企画・取材・記録 村山(山本)敬子・大八木一壽 撮影・起稿・編集 河岸勝弘

高橋克実さん

英語は天命

関西外国語大学教授（英語、秘書学）

元松下電器産業（現パナソニック）社長秘書・通訳（高24 昭和47年卒）8組



英語が話せたらいいなと思う人は多いはず。その英語を極めて人生を切り開いていた高橋克実教授にインタビューをさせて戴きました。高橋さんは英文科を出て勉強を続け先生になつたわけではありません。どんな風に英語と関わり、どんな英語を習得されたのでしょうか？

子供の頃からの夢 海外へ

高橋さんは万寿寺通と西洞院通の交わるあたりで5代続いた古美術商の6代目として誕生します。しかしながら小学校から海外に出たいと考え、そのために英語が絶対に必要だと考えます。堀川高校ではユネスコクラブに所属し恩師小谷先生と出会いボランティア活動を通じ海外に大きく視野を広げます。剣道部にも所属し大学時代に少林寺も習得しますが、これも後に役立ちます。立命館大学ではESS（英語研究会）の部長を務め、英語に磨きをかけ海外への決意を固めます。

1976年就職先も松下貿易に競争率約60倍という難関を切り抜け就職します。お父さんとしては、家を継いでもらいたかったのですが「英語で日本一になったら、家を継がなくていい。」という約束を取り付けます。お父さんもさすがに日本一は無理だろうと思っていたのですが1978年の実業団の英語スピーチ大会で並み居る各企業のトップを押さえ日本一になってしまいます。その大会で知り合った通訳の神様と言われた村松増美先生とはその後も英語の恩師として関係が続き仲人をしてもらうほどのお付き合いとなります。

ついに1982年最初の海外赴任を迎えます。南米ペルーで電池を販売する仕事です。ペルーは英語ではなくスペイン語ですが、そこは言語を超えたコミュニケーション能力も発揮します。少林寺拳法の胴着で客先を訪問し、地元のラジオ局の取材を受けるというエピソードを見ても相当型破りでした。ついにはライバルを打ち負かしシェアナンバー1を獲得します。ここで言語だけではないコミュニケーションというものを体験したと言います。最終的にスペイン語も習得し今でも結構話せるそうです。



社長専属の通訳に シンガポールに赴任も



帰国後も、英語にますます磨きをかけ87年にNHK教育のビジネス英語番組に生徒役としてレギュラー出演するほどとなります。遂には、その英語力とバイタリティを買われ88年から5年にわたり松下電器産業の社長専属の通訳兼秘書となります。お相手は大企業の幹部のみならず、各国の首脳までがやってきます。会社専属の通訳ですから、あれは通訳が間違っていたなどの言い訳は通用しません。少しの誤訳も許されない厳しい環境に身を置くことになります。また専属通訳が語る英語は、そのまま





社長自身の言葉と捉えられます。「楽観できない」と社長がいったものを、「Pessimistic (悲観的)」と表現して怒られたそうです。社長としては同じ内容でもネガティブな単語は使いたくなかつたそうで社長の心中までも読み取らねばならないのです。90年にはハーバードビジネススクールのProgram For Management Developmentも修了し、高橋さんの英語は正にビジネス現場での強力なツールとなっていました。

2007年には2度目の海外赴任をシンガポールで果たします。松下が手がける海外での数々のイベントや広報活動を仕切る立場となります。F1レースや世界初のユース五輪などスポーツナーを務めるイベントでは、松下を代表するだけでなく日本をも意識して情報を発信しなければいけない仕事です。シンガポール首長など要人ともコミュニケーションを図っていくなど、今まで培った英語と経験を生かしこれらの仕事をこなしていきます。プライベートでは表千家公認の海外初の茶会を開くなど日本文化の紹介にも勤めます。これらの日々は非常に面白く刺激的な日々だったそうです。



第二の人生は 関西外国語大学で教師に

定年後は、秘書検定一級という難しい資格も取り、実践で磨き上げた英語を教えることにされました。英米文学としての英語も大事ですが、実際のビジネスで使われる英語も重要です。この英語を身につけることが、どれほどの力になるかは言うまでもありません。また、これを教えられる人というのは案外少ないような気がします。高橋さんは英語をいかにしゃべるか(HOW TO)は無論のこと、何を語るか(What)、最終的にはなぜ(Why)話さなければならないのかまでを教えていきたいとおっしゃっています。高橋さんは、「振り返ってみれば結局英語を通して日本と世界の小さな架け橋の一人となることが自分の天命かもしれない。」と語っておられました。

企画・取材・撮影 河岸勝弘

蒔田明史さん 祇園祭ちまきの危機 ササの研究からわかること

秋田県立大学 生物資源科学部 教授 (高26 昭和49年卒) 4組



京都のど真ん中、四条烏丸で祇園囃子を聞いて育ち、自然とは全く縁もゆかりもないはずだったのが、なぜか植物研究の世界へ。なぜその研究を始めたのか、またそこから何がわかるのかをインタビューしました。



高校ではバスケット三昧の日々、理系の学力ではなかったのに

堀高時代はほぼバスケット漬けの日々を過ごしました。そんなに強くはなかったけど、最後の大会で府のベスト4まで勝ち上がり涙するという青春真っ只中という生活を送ります。インタビューの日もバスケットクラブの仲間達と食事をする約束をされていました。バスケットは大学でも続け、今でも研究よりバスケットの方が自信があると自負されています。堀高の自由な校風も楽しみ、後の研究姿勢にもそれが反映されていると言います。数学が苦手で理系とはいえないのですが、大阪郊外にあった祖父母の家で自然に触れていたという蒔田さんは生物の研究をしたくて京都大学に入学します。

ササの研究にのめり込む 卒業後は文化庁天然記念物担当の調査官に

京都大学ではササの研究に没頭します。ササは100年以上の周期で突然花を咲かせます。そして一斉に枯れ、多くの種子を付け20年以上の年月を経て元の姿に戻っていきます。森の木々にとってはその時期がチャンスです。ササが回復するまでに間に子孫(若木)を育てていきます。このように長いサイクルで森は相を変えていくのです。この仕組みを追いかけて、観察し研究する日々を過ごしました。大学院卒業後東京に移り、文化庁の天然記念物担当の調査官になり日本全国を巡ります。京大での研究が深掘りなら、こちらは横に広く知見を広げることになります。この時の数多くの出会いが人間の幅を広げてくれました。そして調査官として秋田を訪れたときに偶々ラジオで聞いた秋田県立大学の教員募集に応募して現在のポジションに至ります。

秋田の森で見えてくること

秋田でもササの研究は続けていきます。もうこれ以上の研究は難しいかなと思うとDNA解析の技術が発達してきて、新たな発見や研究方法が見つかり興味が尽きないとのことです。地域の人達や他大学の方達とも協力して自然を観察し、自然とどう向き合っていくのかを探索されています。故郷の京都でもフィールドワークを行われています。近年京都北山のササが一斉に開花し枯れてしまったそうです。これらは祇園祭のちまきの原料となります。普通なら回復してくるはずのササが、近年異常に増えた鹿に全て食べられてしまい復活せず、ちまきの生産が危うくなっているそうです。人間が自然をコントロールするなどと傲慢なことを考へても簡単ではないことがわかります。

この後、研究をされている人に聞いてはいけない一言をあえて聞いてみました。「この研究が何の役に立ちますか?」「何の役にも立ちません。でも、おもしろいじゃないですか。研究とは本来そういうものじゃないですか。」とお答えになりました。しかし、私達には人間と自然の関わり方という、今一番必要な研究をされているように感じました。



企画・取材・記録 村山(山本)敬子・大八木一壽 撮影・起稿・編集 河岸勝弘



堀川高校文化祭を訪ねて(平成27年9月5日-6日開催)

9月5日(土)のさわやかな晴天から一転、6日(日)はしとしと雨になりました。しかし校舎内に一步踏み入れると、その中はエネルギーッシュな感動の渦の中!

9月6日、恩田校長先生からご招待をいただき、同窓会実行委員数名で、堀川高校の文化祭を訪ねました。

当日は、あいにくの雨でしたが、卒業以来、数十年ぶりの母校訪問に、わくわく、ドキドキ、興味津々で、生徒に混じって登校させていただきました。

校門をくぐり、真先に、校舎の素晴らしい感嘆しました。校舎に入ると、アトリウム(右の写真はアトリウムの吹き抜け部分)は開放感あふれ、そこで熱気に溢れるパフォーマンスや迫力あるオーケストラの演奏を見ることができ、久しぶりに青春時代を思い出しました。



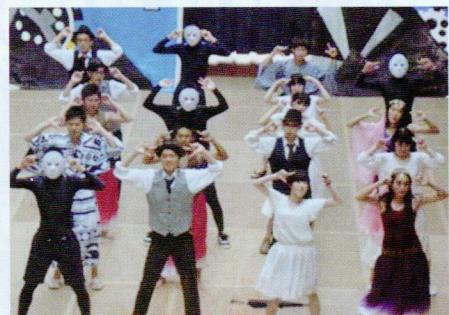
雨降りの中登校する生徒たち

校内の各所で多くのイベントが開催されました。是非とも見学したい興味深いイベントがたくさんあったのですが、開始時間が合わなかったりして、多くを見ることはできませんでした。見学できたイベントのなかで、自然科学部のマスコットむらやまくん主演「炎色反応のあれこれ」の実験を交えたムービーは化学の授業を思い出してとても楽しく見させていただきました。炎色反応は、遠い昔、実験した思い出はありました。色々な金属を炎に入れることで、色々な色が演出できるとは、今さらながら、いい勉強になりました。また花火の原点であり、来年花火を見る時、きっとこの講義を思い出すでしょう。



メイン会場 アトリウム(屋上まで吹き抜け)

アトリウムの端にある階段を登り(少々堪えましたが・・)、5階にある講堂で、手の込んだ大小道具を使った演劇部による演劇が鑑賞できました。さすが演劇部、洗練された演技で、観衆を魅了していました。一見の価値ありと感じました。



3年生のパフォーマンス

最後に、3年生のパフォーマンスを観ました。3年生といえば、この時期、受験勉強で大変じゃあないのかなと思っていましたが、全員、文化祭に集中して練習しているようです。見事に揃った振付のパフォーマンスは圧巻でした。

在校生の皆様には、展示物や横断幕の製作、プログラムの作成など、準備に当日共、大変ご苦労されたことと思いますが、きっといい思い出作りになると思います。

今回見学させていただいた私たちも、在校生から「若さとパワー」をもらったと感じています。残念ながら、「ホーリーを探せ」は、2回しかゲット出来なかったですが。

でも、時間を持て余すことなく、「青春時代に戻った半日」、楽しく過ごさせていただきました。これを機会に卒業生の皆様方にも是非、文化祭を「ほんのちっぽり」でも覗いていただければ・・と感じました。

(おわり)



演劇部による演劇
「こんなちは、あなたを誘拐しにきました。」

救う会京都

救う会とは、北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会です。

救う会京都は、横田早紀江さん(横田めぐみさんの母親)の堀川高校同級生が中心になって活動されています。

以下の予定で、救う会京都の講演会が予定されていますので応援される方は是非ご参加いただけるようご案内いたします。

YOSHIKO SAKURAI
3月 26日
2016 (土)
11時開場・12時開演

決して終わらせない！

A portrait photo of Yoshiko Sakurai, a woman with short dark hair, wearing a white blazer over a patterned top.

一記一

主 催: 救う会京都
出 演: 櫻井よしこ・横田滋・横田早紀江

日 時: 2016年3月26日(土) 11時開場 12時開演
場 所: シルクホール 産業会館8F

チケット: ¥1,000
連絡先: • e+ イープラス
• シルクホール
• 090-7091-5234 松川
• 075-241-1663 下垣



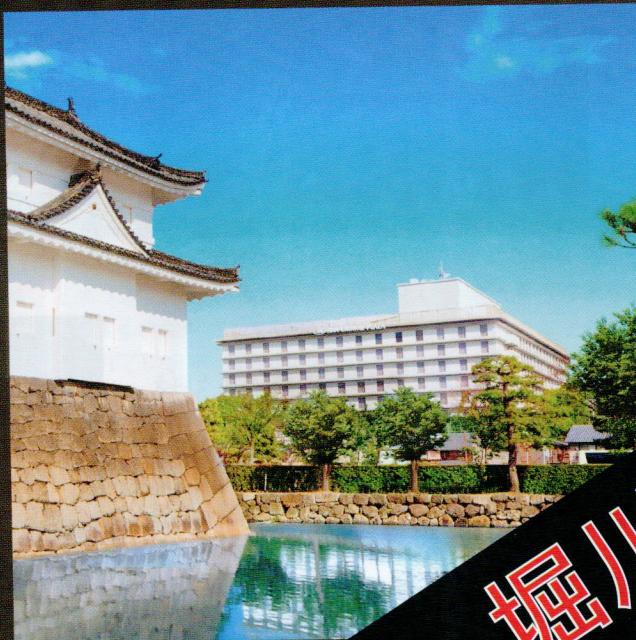
108TH HORIKA

第 108 回 堀川高校同窓会 開催！

平成 28 年 4 月 16 日（土）

受付 12：00～ 開会 13：00

場所 ANAクラウンプラザホテル京都



堀川高校同窓会

会費：7,000 円

28 期生（昭和 51 年 3 月卒業生）は優待会費 5,000 円

AWA REUNION

イベント

門川市長の「京都おもしろ話」

ラポーオールスターズによる懐かしのメロディの生演奏

だヨ！ 全員集合



コース料理を自分のお席にて

オンテーブルビュッフェとフリードリンクで
懐かしの友と心ゆくまでゆったりと
寛いで頂けます。

昨年の同窓会開催の結果(第107回堀川同窓会)

昨年の同窓会は、京都堀川音楽高等学校(旧堀川高校音楽科)のコンサートホールをお借りしてイベントを企画しました。

堀音コンサートと、伝統芸能である落語、能楽とのコラボレーションをお楽しみ頂きました。

出演者は全員、堀川高校(堀川音楽高校)の卒業生にお願いいたしました。

また、式典・小宴は、ANAクラウンプラザホテルで開催いたしました。

卒業生各位、ご多忙乍ら、234名に参加頂き、盛大に盛り上げて頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

107回堀川同窓会実行委員会



【落語】

落語家 桂潮鯛(4代目)

本 名 山下真史(やましたただし) 昭和48年卒

演 目 宿題



【能楽】

能楽師 井上裕久(観世流シテ方)

本 名 井上周久(いのうえかねひさ) 昭和49年卒

演 目 船弁慶

【堀音クラシックコンサート】

ヴァイオリン: 村瀬理子・木下真希

チェロ: 雨田一孝

ピアノ: 佐渡春菜



ANAクラウンプラザホテルでも式典・小宴でもいろいろな催しがあり盛り上りました。

- ・市田ひろみ会長のご挨拶
- ・門川市長のご挨拶
- ・堀川高校恩田校長、堀川音楽高校山脇校長のお話
- ・堀川高校新卒業生の将来に向けてのフレッシュな語り
- ・卒業50周年記念講演(橋本弘蔵京大名誉教授による、「CO₂を排出しない宇宙太陽光発電」の講演)
- ・吉田孝次郎さんの音頭で、全員で合唱した生徒会歌「緑なす森に」



堀川同窓会ホームページ リニューアルオープン

① トップページ	② 母校は今	③ 沿革	④ 校長インタビュー	⑤ 活躍する卒業生	⑥ 同窓会の歩み
⑦ 役員ご挨拶	⑧ 同窓会事務局	⑨ 同窓会会報誌	⑩ 学年別同窓会	関連リンク集	お問合せ

①2015年9月開催堀川文化祭情報

②堀川高校の沿革がわかります

③恩田校長に突撃インタビューしました

④各界で活躍する卒業生情報

- ・所定フォームにて投稿
- ・自他推薦を問いません

⑤これまでの同窓会の写真はココ



⑥同窓会の歴史はココ

⑦会長・副会長をご存知ですか？

⑧同窓会運営情報がわかります

⑨これまでの会報誌履歴はココ

⑩学年別同窓会情報の掲示板です

- ・所定フォームにて情報投稿

又は、 <http://horikawa-dosokai.com/>



検索
検索

今すぐ、
検索！

編集後記

私たち107回同窓会実行委員は、昨年開催した同窓会の運営と会報誌(本誌)の発行を担当いたしました。

同窓会の企画から会報誌の発行まで約2年間の活動でした。今般、無事、会報誌の発行を終えほっとするとともに、ご支援頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

活動を通じて、同窓会・会報誌の企画を検討するにあたり、堀川高校について少し調べましたところ、各界で活躍する卒業生が意外に多く、著名人、文化人を多く排出していることを知りとても誇りに思いました。

そこで、今般、リニューアルする堀川同窓会ホームページに、「各界で活躍する卒業生」のページを新設し、自薦他薦を問わず投稿頂けるようにしました。皆様、是非、検索してみて頂きたいと思います。もちろん、投稿もお待ちしています。

また、近年、全国区で有名になった「堀川の奇跡」について、『普通の公立高校が、普通の教職員の頑張り次第で学校を生まれ変わらせることができた』という当時の荒瀬克己校長の談話にあらためて感銘いたしました。「堀川の奇跡」を起こされた当時の教職員の皆様、また、それを引き継ぎ、一層の発展にご尽力されている恩田校長はじめ現在の教職員の皆様に感謝させて頂くとともに、これからの中学生にも、この素晴らしい「堀川DNA」を受け継いで頂きたいと願っております。

107回堀川同窓会実行委員一同